

地域の実情に応じた アウトリーチ型支援の充実に向けて ～滋賀県の訪問型家庭教育支援の取組について～

滋賀県教育委員会

生涯学習課主査

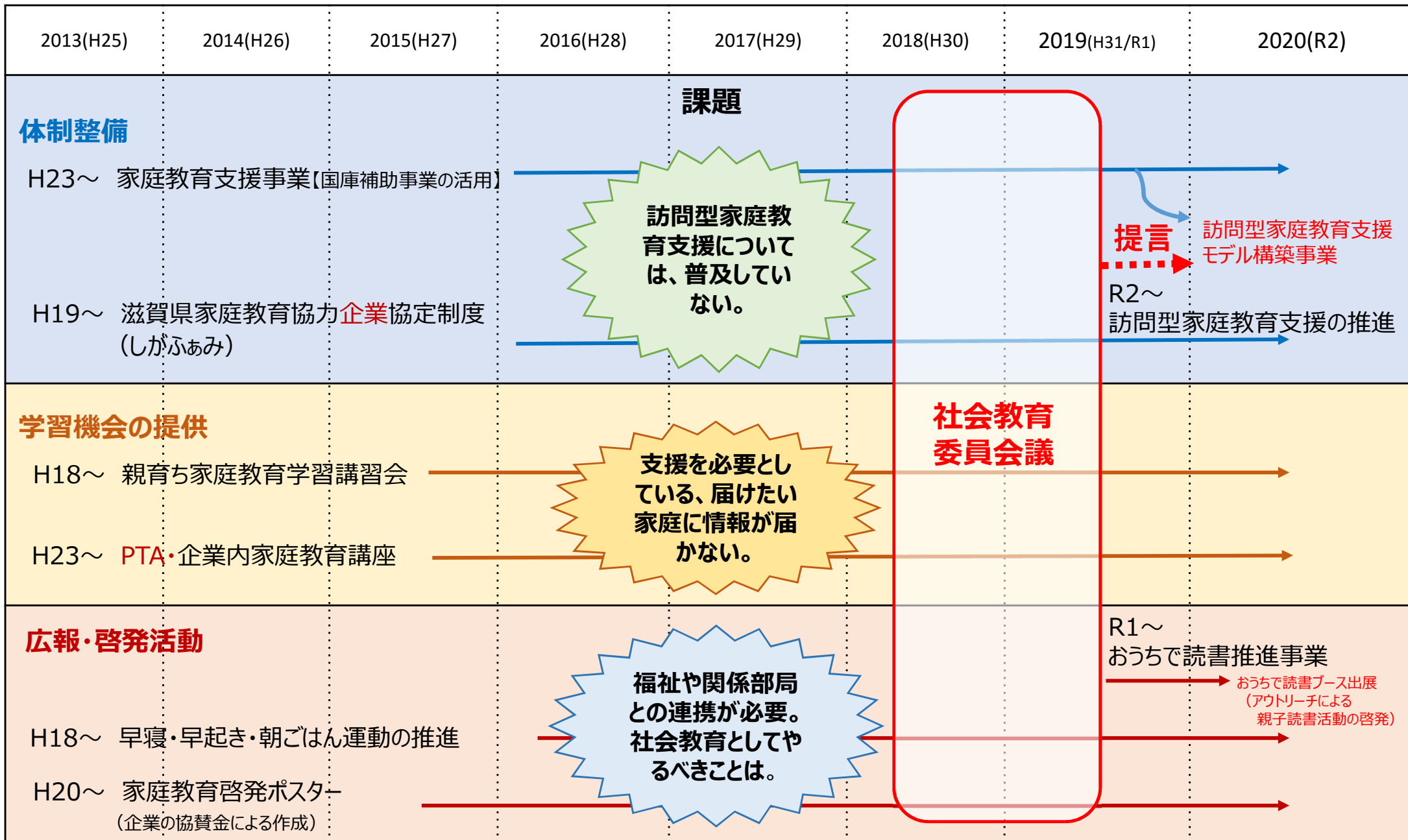
岩脇 俊博

スクールソーシャルワーク・スーパーバイザー

上村 文子



滋賀県における家庭教育支援の取組について



『困難を抱える家庭・子どもを支える支援について』

現状・課題

家庭

- # 支援の必要な家庭の増加
- # 保護者の孤立
- # 虐待増加 ネグレクトの多様化

必要な家庭、届けたい
家庭に支援が届いていない

学校・園

- # 不登校の増加
- # 個別対応の増加
- # SC/SSW/支援員配置

福祉や医療との連携強化・
家庭や地域との情報共有
がしにくい

関係機関

- # 様々な支援者の関わり
- # 家庭へ地域支援がたぎ切れていない

地域の財源、場所、人手の
活用・子どもを中心にしたまち
づくりシステムが必要

具体的な施策

支援につなぐ体制整備
(滋賀県における普及モデル)

…訪問型家庭教育支援の手法の普及

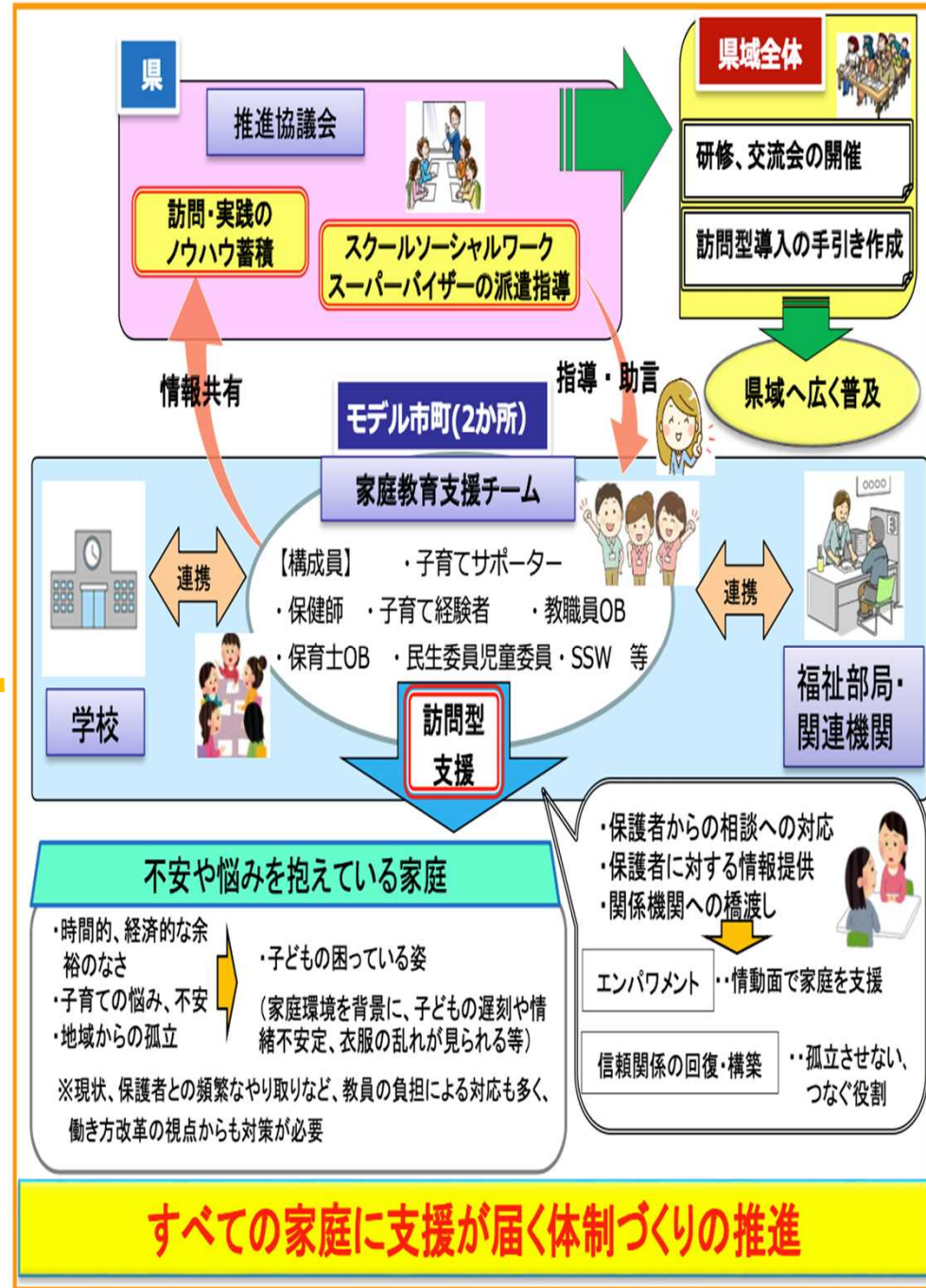
ギャップ

打ち手

めざす地域像

個の支援から地域全体がつながる仕組みへ

- 地域にある社会教育や福祉の様々な支援を組み合わせた個別プランにより支援が行われることが理想。
- 学校を核とした(プラットフォーム)体制づくりによるネットワーク。
- 地域のキーパーソン(人材)の力が発揮される、地域全体がつながる包括的な体制づくり。



「訪問型家庭教育支援」モデル構築・普及事業

① スクールソーシャルワーク・スーパーバイザーの派遣指導



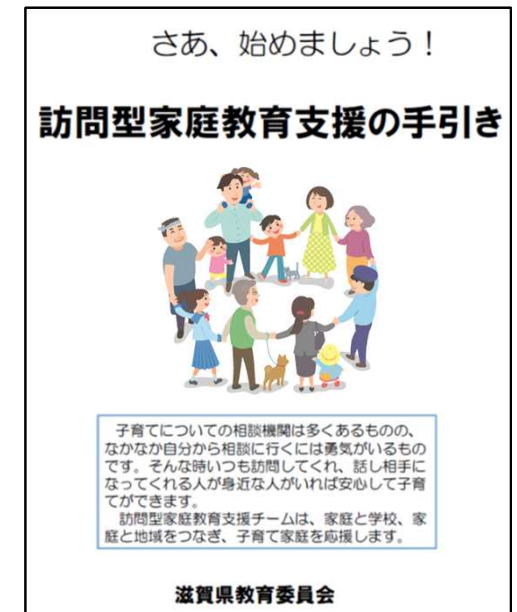
★専門的知見を有する県のSSWsv(スクールソーシャルワーク・スーパーバイザー)をモデル市町へ派遣、指導助言を通じて立ち上げを支援。

② 研修会・実践交流会の開催



★地域人材の発掘・育成の具体的なノウハウや実践を蓄積・交流。
★理念や思いを共有し、研修等を通じてつながり、広く県域へ普及。

③ 家庭教育支援推進協議会で 手引きを作成

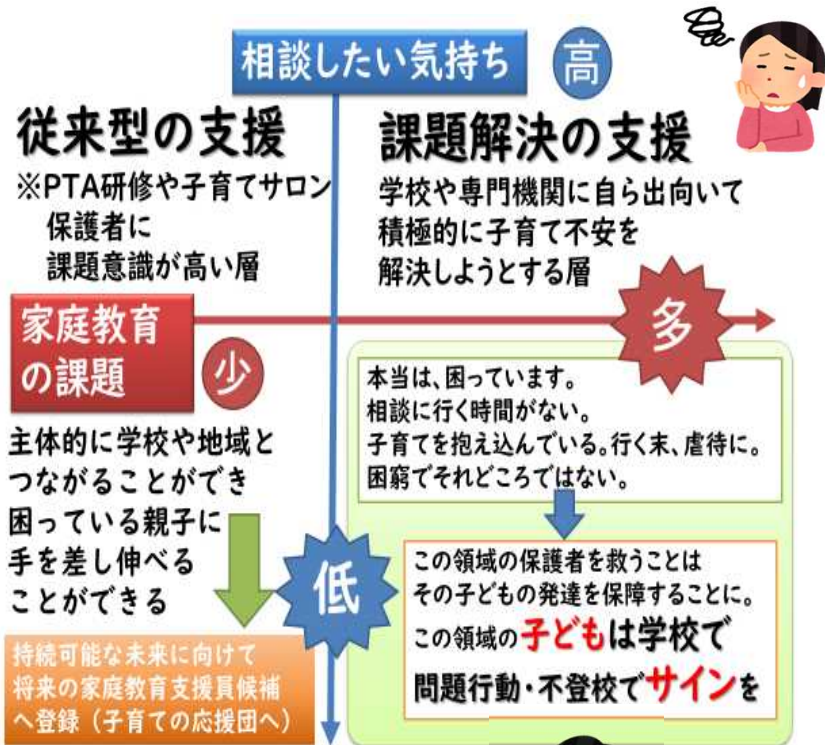


★有識者・現場の意見を取り入れながら、汎用的な手引きやマニュアルを作成。

家庭教育支援員の聴き方は、“効く”聴き方

- ・困難を抱える家庭の保護者支援は、役割分担と連携が必要。（学校⇔家庭教育支援⇔福祉）
- ・地域で一人でも感情の受け止め（クッション）役がいて、福祉専門職等の指導・助言を受け入れやすくなる。
→ 福祉的な課題も見えてくる。

福祉と教育では届かない、既存の政策の隙間を埋めるのがアウトリーチ型支援

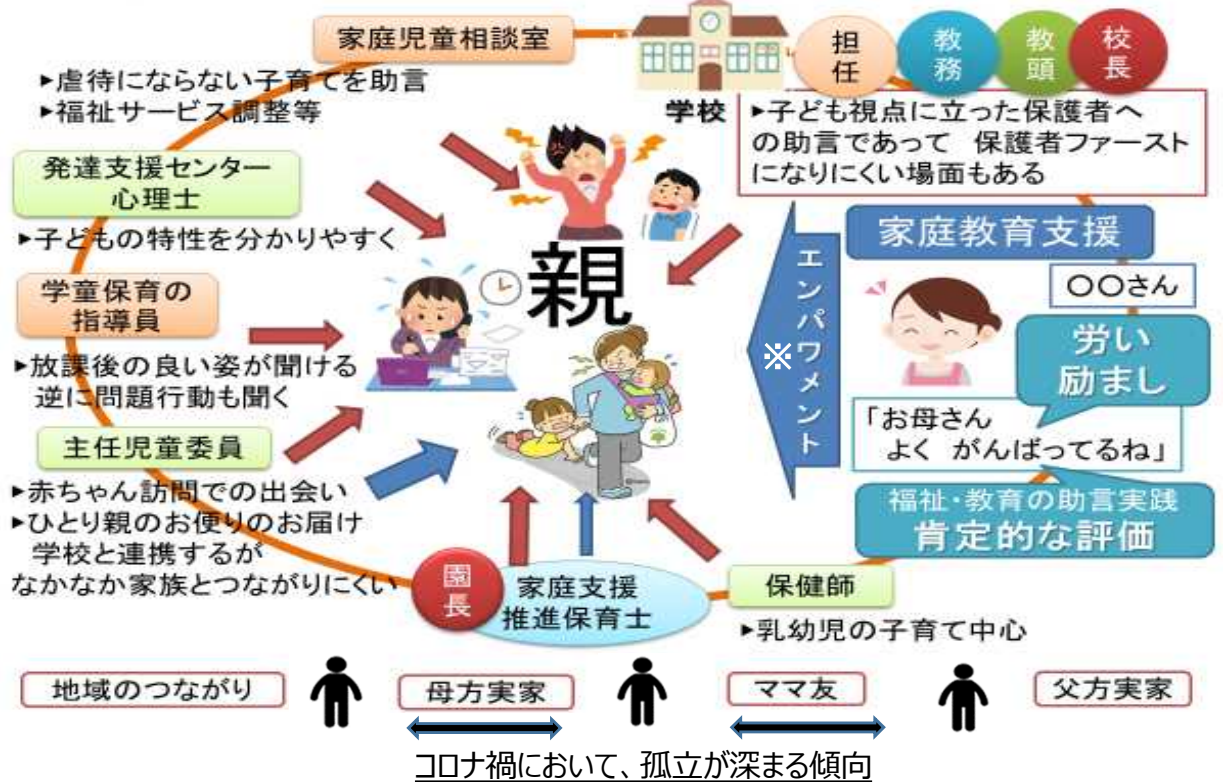


さらに…

コロナ禍において、家庭教育への関心が低かった家庭では、関心がさらに低下



～ 頑張れ!!だけでなく「頑張ってるね」の一言の意味～



「指導（↓）」の効果をもとに「寄り添い（↑）」が必要

※**エンパワメント**：その人のもっている力を最大限発揮できるようにすること

モデル市：彦根市・湖南省市での取組例

市教委と学校と家庭教育支援員の定例連絡会



市の関係部局（学校・福祉など）が一堂に会することで様々な支援を持ち寄って、**具体的・多面的な対応を検討できる。**

→ 行政側と学校側がお互い理解し合うことで安心する。

→ 民間・NPOの活動情報も共有することで、**協働に相乗効果の期待が高まる。**

我が 家庭教育支援チームはどこを目指し 何をする!!

モデル事例により、組織の活性化と組織の成功体験目的に



きっと
良くなる
ポイント!

SSWは翻訳係

「地域」は「学校(=校内体制)」を知る 「学校」は「地域」を知るための **つなぎ役**

持続可能な 共生社会の実現に向けて 地域の独自性を見出す!!

地域

市

教育・福祉・医療・保健等

家庭

子

親

個別の事例へのアプローチ



チーム学校

学校組織体制(校内連携体制)

学級担任・学年を支える校内組織体制(校内ケース会議)

常に情報共有
校内の連携
関係機関との連携

学校体制への
アプローチ

市教委

SSW

生徒指導 部局

教育委員会内の
連携・協働

社会教育 部局

訪問型
家庭教育支援
チーム

家庭・学校・地域の連携に、
SSW事業を活用
つなぎ役 **翻訳係**

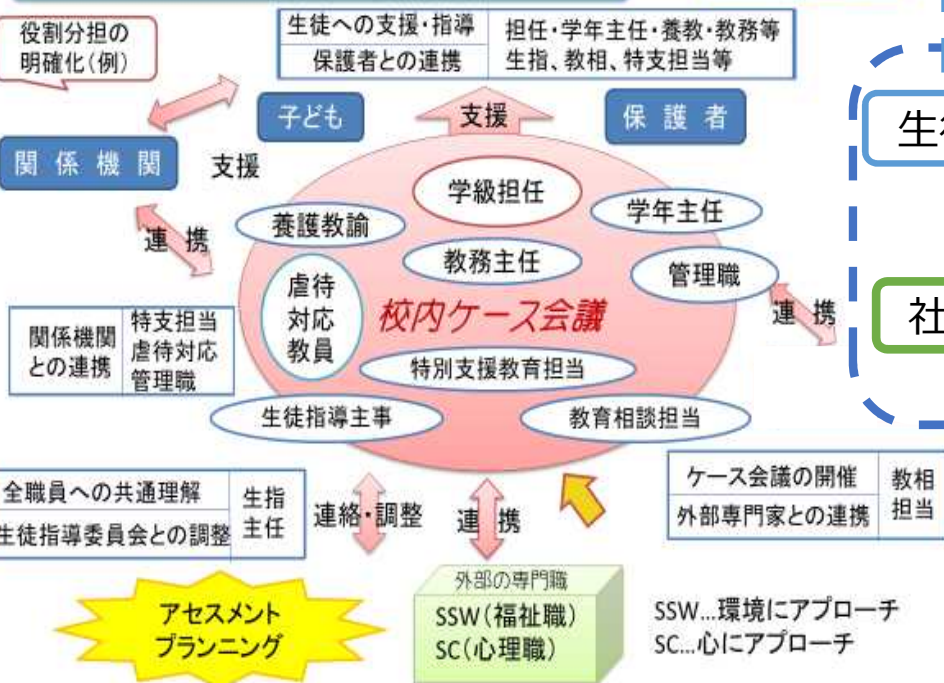
県(市)の子ども家
庭相談体制との協働

県

市の特徴・背景に合わせて、
ミクロ・メゾ・マクロの課題を
解決するために、**市と協働**
目標：持続可能な体制整備

SSW
SV

- ①ミクロ(家庭)の視点
- ②メゾ(学校組織)の視点
- ③マクロ(市)の視点
でスーパーバイズ



コロナ禍だからこそ家庭教育支援チームの充実を ～地域を見立て 手だては**未来志向**で切り拓く～

地域の強みを活かす

～地域コーディネーター（学校と地域の連絡調整役）との協働を～

① 0 → 1 最初の一步【基本形】

- ★(県と)市で、**地域を分析しねらいを定める**
- モデル校を1校から
- 支援員 家庭訪問や学校や福祉との連携に明るい経験・理解が深い方…1名必須
- 学校長の理解 ○窓口の教員の理解
- 可能ならSSWを活用
- 事業評価を市と学校が協働で

従来型

訪問型をさらに充実
発展したい

② 1 → 1 0 発展系 量産・資質UPへの体制整備

- ①を基本としながら 地域の特徴を活かす
- 市の事業担当者（教員）が学校と県とのパイプ役に【地域支援の協働内容】
- SSW…アセスメント・学校組織の翻訳を校区ごとに
- 地域コーディネーター…地域人材発掘・人・モノの循環

訪問型支援の強み『**困難な家庭支援の充実**』

新規

家庭教育支援チーム

既存

② 1 → 1 0 発展系 量産・資質UPへの体制整備

- モデル校で グレーゾーンの子育て不安対応 福祉課題の**軽→重のケースをチーム連携で**
- ケースを増やす 学校連携を市が中間評価
- モデル校2年目は自主性重視 市は新規に力点
- 出向く場 届ける場 つながる場 配る場
- 保護者支援の資質向上を届けるコロナ版研修
- ➔支援員の人材育成と教員とのつながりアップ

従来型+訪問型

- ③ ★**地域全体の家庭・子どもを支えるネットワーク強化**
- 中間層だけでなく、要保護性のある困難家庭も支援
- 市の福祉部局と社会教育の連携必須。
- 組織同士の理解向上のために、教育長・各教育、福祉部局の課長と➔**市独自の定例運営者会議で事業評価。**
- 市としての位置づけ明確化目的で外部専門家のSV活用。**
- 実務者レベルはSSWと共にケース会議で事業説明し、家族を支える関係機関と共に家族支援を検討していく。
- ※チームの役割分担があるからこそ 守秘の壁！突破

学校配置型 の場合	学校 <small>(先生・家庭教育支援員・子ども・保護者)</small>	市町教育委員会 <small>(家庭教育支援所管課)</small>	滋賀県教育委員会 <small>(家庭教育支援所管課)</small>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭教育支援員の校内体制への位置・役割の明確化ができた 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内関係機関とのスムーズな連携・体制強化された 	<ul style="list-style-type: none"> ○現場（学校・家庭）の状況・ニーズが把握でき、事業の改善や発展が図れた
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職や担任との情報共有等の時間確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○モデル事業後の体制づくり・マネジメントはどこが担う？ 	<ul style="list-style-type: none"> ○他の市町への横展開が課題（普及のボトルネックは？）
展望	<ul style="list-style-type: none"> ○業務改善や地域協働・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○県及び市町SSWとの連携 既存の仕組みや人材活用リデザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会教育主管課のみならず生徒指導・福祉・子育て支援・社会福祉協議会などつながっていく
<ul style="list-style-type: none"> ○地域と学校のまちづくり = 地域包括ケアシステムの構築 ○研修会・実践交流会 			

参考資料 1 (滋賀県教育委員会生涯学習課ホームページ)

滋賀県社会教育委員会議 提言
「困難を抱える家庭・子どもを支える支援について」



「訪問型家庭教育支援」モデル構築・普及事業



「おうちで読書」推進事業



参考資料 2 (滋賀県子ども青少年局ポスター)

滋賀県

01 正しい情報を選んで伝える
信頼性を正しく知って行動しよう

02 子どもの声を聞いて一緒に考える
今の気持ちを伝えよう

03 心と身体の健康を支え思いやりを育む
自分も周りの人も大切に

04 人とのつながりや喜びを感じられる居場所をつくる
頼れる人や場所を見つけよう

05 のびのびと遊び育つための環境を守る
身体を動かしてしっかり遊ぼう

06 文化・芸術・自然・社会に触れる体験を増やす
わくわく感動する気持ちを持とう

07 オンラインを活かすための環境を整備する
オンラインを上手に活かそう

すまいる あくしょん

**大人が動けば、子どもが動く。
大人が変われば、子どもが変わる。**

子どもたちの笑顔を増やすための活動やイベント等の事業を行う際
「すまいる・あくしょんのロゴ」や「7つのあくしょんマーク」の活用をお願いいたします
「すまいる・あくしょんイメージキャラクター」および「あくしょんマーク」の使用については
下記の「すまいる・あくしょん事務局」へお問い合わせ、ご相談ください。

「すまいる・あくしょん」関連イベントや取組事例はこちらから！

すまいる・あくしょん事務局(滋賀県健康医療福祉部 子ども・青少年局内) TEL.077-528-3550